

平成23年度補助事業 自己評価書

番号	23-019
項番	1/1

補助事業者名	一般社団法人 日本機械工業連合会		
補助事業名	機械工業における標準化と事業戦略に関する調査研究補助事業	事業項目名	

1. 社会的課題と補助事業の関係整理

社会的課題 (最終目的)	状況	我が国機械工業がグローバル競争下で持続的な発展を遂げていくためには、技術に立脚した製品開発と市場拡大のための標準化戦略との一体的な事業推進が不可欠。
	補助事業で解決・改善を目指す	目指す姿



補助事業	目的 (中間目的)	標準化と事業戦略との結びつけに積極的に踏み込めずにいる機械工業分野において、一段と厳しさを増すグローバル市場の中で持てる技術力を有効に競争力として発揮させる事業戦略を推進するため、事業戦略の中に効果的に標準化を組み込む方策を構築することで、機械工業の標準化の推進とグローバル競争力強化に寄与する。
	受益者	我が国の機械工業関係企業
	実施内容	企業の有識者12名で構成する事業/R&D/知財・標準化三位一体戦略調査専門部会を設置して調査を推進した。具体的調査では一般機械工業分野の工業会の協力を得てアンケートによる各社の取り組みや活動体制、特徴的な事例等について効率的に情報収集した。アンケートヒアリングで、各社の製品レベルでの標準化戦略パターン(オープン・クローズ)の認識を把握するとともに、企業内での標準化活動体制の実態についても分析した。その結果から機械工業分野での標準化戦略に対する課題、今後必要な取り組みを明確にできた。
	結果・成果	①経済レポートへのリンク、JETRO、企業等から情報提供依頼があった。 ②技術関連委員会で成果報告を行った。(参加者約40名) ③引用件数は把握出来なかったが、弊会HPからの同報告書のダウンロード件数は100件を超えるなど、波及効果が期待できる。

2. 補助事業の実施状況、結果等を振り返り、補助事業全体を総合的に評価

事業全体の総括的感想	標準化により起こりえようとしている変化に対して、機械産業全体が自分たちの現実感として全くイメージできていないという状況があるが、いずれIT産業やエレクトロニクス産業分野で起こったこと(部品レベルから牙城を崩され、最終的には完成品にまで浸食される)が機械工業分野で起こらないとも限らない。今後、常にそのことを意識して、市場ウォッチを怠らず、事業戦略上対応できるようにしておく必要がある。
今回の事業で、優れていると評価できる点	【実績】 一般機械系企業180社に対して、標準化に関わる対策、必要性の有無、標準化に関わる企業活動の実態について、アンケート調査を実施して、48社から回答を得た。(回答率26.7%) 【理由】 電機・電子分野に比較して標準化に対する意識が必ずしも高いとは言えない一般機械系分野での実態調査は、前例がないと思われる。
今回の事業の課題、改善すべきと思われる点	【実績】 電機・電子分野を除いた一般機械系分野の公表された事例が少なく、機械産業の方向性に役立つ事例は3件であった。 【理由】 各企業の事業戦略や技術戦略に関わることであり、開示しにくい部分であるため、直接的な製品に関わる情報は少なく、得にくかった。そのため製品の部品や構成要素などから今後影響を及ぼしそうなリスクをさらに深く解析する必要がある。
事業実施で得ることができた教訓(知識・知見)、その他アピールしたい点	アンケートの結果から機械工業における標準化の取り組みの現状及び標準化戦略の課題として、標準化の波によって、起こりえようとしている変化に対して、機械工業全体が自分たちの現実感として全くイメージできていないという状況であることがわかった。 機械製品はデジタル化そのものが性能発揮の根幹であるエレクトロニクス分野の製品とは特性が根本的に異なるので、機能や性能を発揮する根幹部分のデジタル化は難しいが、制御部分のデジタル化度合いは相当進んでいるので、製品本体よりも機能部品で標準化の波にさらされるリスクが高いことを明らかにできた。